

JRIS

鉄道車両－自動高さ調整弁－第2部：
中立位置付近に微小流量帯を持つもの

JRIS E 4117-2 : 2005

(JARI)

平成 17 年 6 月 6 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

社団法人 日本鉄道車輛工業会 発行

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	田 中 眞 一	財団法人 研友社
(委員)	佐 伯 洋	国土交通省 鉄道局
	宮 本 昌 幸	明星大学
	高 原 英 明	明星大学
	古 関 隆 章	東京大学 大学院
	岡 本 勲	財団法人 鉄道総合技術研究所
	由 川 透	東日本旅客鉄道株式会社
	佐々木 誠 一	東京地下鉄株式会社
	沖 松 邦 正	日本車輛製造株式会社
	大 山 滝 夫	株式会社東芝
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	溝 口 正 仁	社団法人 日本鉄道車輛工業会
(顧問)	井 口 雅 一	東京大学 名誉教授
(事務局)	下 村 孝	社団法人 日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	佐 藤 芳 彦	東日本トランスポート株式会社
(顧問)	田 中 眞 一	財団法人 研友社
(委員)	佐 藤 公 一	川崎重工業株式会社
	山 口 隆	日本車輛製造株式会社
	河 口 清	近畿車輛株式会社
	杉 山 隆	東急車輛製造株式会社
	尾 藤 千 秋	新潟トランス株式会社
	石 川 次 男	三菱重工業株式会社
	和 嶋 武 典	株式会社日立製作所
	大 西 利 之	株式会社東芝
	塩 見 省 吾	三菱電機株式会社
	尾 崎 覚	富士電機システムズ株式会社
	細 田 芳 男	東洋電機製造株式会社
	岡 方 義 則	住友金属工業株式会社
	柴 籐 忠 重	ナブテスコ株式会社
	新 井 衛	日本信号株式会社
(鉄車工委員)	島 添 敏 之	株式会社京三製作所
	溝 口 正 仁	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	下 村 孝	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	宗 像 政 美	社団法人 日本鉄道車輛工業会
	川 平 吉 郎	社団法人 日本鉄道車輛工業会

制 定 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会 会長

掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ

発 行 者 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会

(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NTT-TEL ; 03-3257-1901 NTT-FAX ; 03-3257-3200

URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>)

審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会

作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会をお願いします。

なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、平成 11 年 7 月 21 日に廃止された **JIS E 4117-1988**：鉄道車両用自動高さ調整弁の技術的内容を、今後も継続的に活用できるようにするため、“日本鉄道車輛工業会規格（以下、鉄車工規格という。）”として制定する作業を進める際、構造・空気の流量特性の異なる方式が使われているので、この方式の同時に制定することにした。

今回の制定に当たり、廃止 JIS に該当する調整弁を“鉄道車両－自動高さ調整弁－第 1 部”とし、これと異なる方式の調整弁を“鉄道車両－自動高さ調整弁－第 2 部”として制定することにした。この規格は、作業部会で作成した原案を基準整備委員会での審議後、鉄車工規格の制定に関する規程に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定したものである。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。会長及び鉄車工規格審査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JRIS E 4117 の規格群には、次に示す部構成がある。

JRIS E 4117-1 第 1 部：不感帯・時間遅れを持つもの

JRIS E 4117-2 第 2 部：中立位置付近に微小流量帯を持つもの

鉄車工規格“E シリーズ”制定の背景

日本工業規格（JIS）は、従来、製品仕様を規定することの性格が強かったが、国際規格との整合化を考慮して、徐々に性能規定化へ移行している。また、使用分野が限定されている製品は、当該産業分野の団体標準へ移管するとの方針が出され、廃止される JIS が多くある。

鉄道車両の分野で継続的に使用する可能性のある規格を抽出し、鉄車工規格として受け入れ制定することとした。

この規格は、“E シリーズ”として区分し、その番号は利用し易いように前身の JIS 番号を踏襲している。

JRIS は、関係する技術分野に応じて四つに区分した体系で構成されていて、この規格の“E シリーズ”のほかに、“D”、“R”、“J”シリーズがある。

目 次

	ページ
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 定義	1
4. 種類及び記号	1
5. 性能	1
6. 構造	2
7. 形状・寸法	2
8. 外観	3
9. 検査の種類と項目	3
9.1 検査の種類	3
9.2 検査の項目	3
10. 試験	3
10.1 耐圧試験	3
10.2 気密試験	3
10.3 レバーの作動試験	3
10.4 不感帯試験	3
10.5 流量試験	3
10.6 微小流量帯流量試験	4
11. 表示	4

鉄道車両－自動高さ調整弁－

第 2 部 : 中立位置付近に微小流量帯を持つもの

Rolling stock-Levelling valves-

Part2: With throttled air flow around neutral position.

1. 適用範囲 この規格は、鉄道車両に用いる自動高さ調整弁（以下、LV という。）について規定する。

備考 1. この LV は、中立位置付近に微小流量帯を設けており、時間遅れのない構造のものである。

2. この規格で用いる“圧力”は、大気の圧力を基準としたゲージ圧である。

2. 引用規格 この規格に引用する規格を、次に示す。

JIS B 0202 管用平行ねじ

JIS B 0205-1 一般用メートルねじ-第 1 部 : 基準山形

JIS B 0405 普通公差－第 1 部 : 個々に公差の指示がない長さ寸法及び角度寸法に対する公差

規格概要のため以下は省略する。